

未曾有の危機に直面する  
アフガニスタンで  
人道支援の灯を絶やさな  
い  
今こそ、支援の力を

アフガニスタン  
緊急支援



現金を手に入れるために  
通りで家具や家電、  
食器などを売る住民たち

Webページ

## JENサポーター (毎月の継続寄付) のページを リニューアルしました



日々増大する現場のニーズに応え、支援の輪を広げるために、JENサポーターのページをリニューアルしました。新しくなったジェンのタグライン「自分で明日を選べるように」を軸に、「ジェンの支援活動のことを丁寧に伝えるページづくり」を心がけ、幅広い世代にわかりやすく伝わるページを目指しました。ぜひご覧いただき、SNSなどでシェアしていただけますと幸いです。

JEN(ジェン)は、誰もが「自分で明日を選べるように」なるために  
自分で明日を選ぶことが難しい環境にいる人びとに寄り添って活動しています。

JENサポーター(毎月の継続寄付)は、定額自動引き落とし型の寄付プログラム。  
年4回発行のニュースレターをお届けするほか、  
活動報告会などさまざまなイベントのご案内をお知らせいたします。  
月々1,000円から始められるJENサポーターになって、私たちとともに支えてください。

<https://www.jen-npo.org/monthly/>



長く続く紛争や大きな災害のあとで「生きる力」を支えていく

## ジェンの活動へのご支援のお願い



未使用の書き損じ年賀ハガキや  
ハガキはありませんか？

あなたの未使用の(書き損じた)年賀状や官製ハガキ(郵政ハガキ)または、未使用切手をジェンの東京本部にお送りください。ジェンの支援活動のために活用させていただきます。



〒107-0052  
東京都港区赤坂7-5-27-305  
特定非営利活動法人ジェン「ハガキ・切手係」

スタッフの  
ひとこと

約1年の出産・育児休暇を経て、10月より職場復帰いたしました。我が子とのかけがえのない時間を過ごす中で、この世界を、未来を、もっと良くしたいと強く思うようになりました。ジェンで働くスタッフを支えることで、日々懸命に生きる人々を支え、ご支援くださる皆様の想いを届けていきたいです。(管理部・稲垣)

※本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載は固くお断りいたします。  
※QRコードを読み取る際、無料アプリをお使いの方は、アプリによって広告が表示する場合がございます。間違っても広告をクリックされないようご注意ください。

東京本部事務局の住所について

今回ニュースレターをお送りする際に使用している封筒の記載住所は旧住所となります。修正に要する費用などを勘案した結果、封筒に表示する住所については、当面古いままで使用し続けることといたしました。皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解賜われますようお願い申し上げます。



特定非営利活動法人ジェン(JEN) 東京本部事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-27-305  
TEL: 03-5114-6201 FAX: 03-5114-6202

ホームページ <https://www.jen-npo.org/> Japan.Emergency.Ngo  
NPO JEN 検索 @NGO\_JEN

このニュースレターは継続可能な森林管理のもと生産された原料で製造された紙、FSC®認定紙を採用しています。



●女子学習環境改善事業  
校舎や外壁の建設作業が順調に進められており、教育環境が整いつつあります。教師を対象とした教授方法の研修も、多少の遅れはあるものの、順調に進められています。

●水・衛生環境改善支援事業  
ナンガルハル県パチルワガム地区で3月から実施されていた、水衛生環境改善を通じて新型コロナウイルス感染症拡大予防支援事業が無事に完了しました。井戸と給水所自体は9月初旬に完成し、井戸管理委員会メンバーの管理体制のもと使用がスタートしていましたが、タリバンによるカブール制圧で状況が混乱していたため、正式な引き渡しが行われていませんでした。ようやく11月3日に、参加人数を最小限に制限したかたちで引き渡し式が行われ、プロジェクトの節目を迎えました。



\*本事業は、外務省からの助成金やジェンへの寄付金により実施しています。



\*本事業は、ジャバンプラットフォームからの助成金やジェンへの寄付金により実施しています。

校舎の窓を設置しているところ

引き渡し式の様子

●シリア難民・ホストコミュニティを対象とした緊急食糧支援  
シリアの国境に位置するキリス県では、人口に対する難民の割合が国内で一番高く、約10万人のシリア難民を受け入れています。難民のほとんどが就労許可を保持しておらず、低賃金かつ、いつ仕事を失ってもおかしくない労働状況で生計を立てることが一般的でした。しかし、新型コロナウイルスの影響を受けて、多くの人びとの収入が減少し、失業率も上昇。政府からの生活支援はほとんどなく、事態は逼迫しています。厳しい

状況に置かれた人びとは、食糧の量や質、回数を減らし、借金や児童労働等を選択せざるを得ない状況にあります。本事業では、現地で活動するNGO団体と連携して、キリス県に住む2,500世帯(1世代5人の目安)のシリア難民と脆弱なホストコミュニティの人びとに、契約商店で約3カ月分の食糧を購入できるパウチャーを配布。配布前後でモニタリングを実施して生活の変化を観察、分析します。



\*本事業は、ジャバンプラットフォームからの助成金やジェンへの寄付金により実施しています。

アフガニスタン  
裨益者と職員、現地スタッフの安全を最優先に、なるべく移動を減らすなど配慮しながら事業を粛々と進めています



アフガニスタンの現状に思うこと  
事務局長 木山啓子

いま、アフガニスタンは「国民の大半が飢える」という未曾有の危機に直面しています。

8月15日にタリバンがカブールを制圧する前から、40年以上にわたる各地での戦闘と、貧困、そして数年にわたる極度の干ばつが、アフガニスタンに打撃を与え続けています。それでも経済活動を行う会社や人道支援は、国際機関や世界各国からの支援を受けている行政組織と共に、アフガニスタンの人々の日々の営みを何とか支えてきていました。

タリバン政権の誕生を懸念する諸外国や国際機関が、外国の銀行に預けられていたアフガン国民の資産を凍結したことで、そのすべてが機能を失いつつあります。資金という血液が回らない状態で、すでに3カ月が経ちました。アフガニスタン国内の銀行は資金を持たないため、個人は週に400ドルまで、組織は銀行残高の5%までしか現金を引き出せない状況です。残高の5%では仕事ができないので、人員解雇を始めた企業が多数あると聞きます。お店ではこれまで通り食料を販売していますが、購入する人々の資金が底をついていて、普段なら一週間で売り切れてしまう量のお米や小麦粉が、ひと月以上も売れないそうです。公務員は、5月から給与の支給を受けておらず\*、働く意欲があっても、給与が支払われるめどが立たないため、働き続けることは難しいといえます。\*2021年11月15日現在

資金を凍結している側にも理由があります。できたばかりのタリバン政権を信頼しきれないだけではなく、過激な考え方で知られるメンバーが政権に入っているため、いったん凍結を解除してしまったら、資金が何に使われるかわからないと恐れているのです。

ただ、既に極度の栄養失調になっている子どもも出ている中、適切に使われなくてもいいという理由だけで、アフガニスタンの人々の資産をアフガニスタンの人々が使えない状態であること以上に不適切なことがあるのか、どれほど考えても判りません。一刻も早く公務員の給与と人道支援に限定してでも資金凍結を解除しなければ、人々の命が危ない状況です。アフガニスタンの人々が、世界中の人々の支援を受けて、過去20年かけて作ってきたシステムは、かろうじて機能していますし、タリバン政権はこれを活用しようとしています。公務員の給与を支払うことは、人々の命と暮らしを救うだけでなく、この20年間の多くの人の努力と莫大な費用を活かすことに直結しているのです。

政権内に過激なメンバーがおり、女性の就労や就学の権利が確保されない状況で、タリバン政権が資金を使えることに抵抗感を持つ方はいると思います。一国の国民全体の命が危機に瀕している今、人命を優先することこそ真の人権尊重ではないでしょうか？その資金凍結が解除されるまでの時間、緊急で支援を必要とする人々のために、ジェンも微力を尽くします。アフガニスタンの3,900万人の命のために。

支援への参加方法

1 ジェンのWebサイトで寄付する

ジェンの活動地であるアフガニスタン・ナンガルハル県で最も脆弱な状況に置かれた人びとに、食糧を中心とした支援を実施することを計画しています。米、小麦、油、塩など、配布直前に現地のニーズを改めて確認し、一番必要とされる物をお届けします。まずは命をつなぐこと、そのためにみなさんのご支援をお願いいたします。



詳細はこちらから

2 クラウドファンディングをSNSで拡散する

「緊急支援・アフガニスタンにいま食料を！」というクラウドファンディングをREADYFOROで開始しています。多くの方に知っていただけるよう、まわりにぜひ拡散していただけたら幸いです。



詳細はこちらから

パキスタン  
活動開始に向けて、いまでできることを粛々と

●ハイバル・パトウンハー州クラム県における子どもたちの教育環境改善支援事業  
アフガニスタン情勢の影響を受けて、政府のさまざまな手続きが厳しくなっており、NOC(入域許可証)の取得に時間がかかっています。(2021年11月1日現在)。そのため、イスラマバードの職員や直接活動を実施するトルコ・キリス県

現地職員が、現地に行けない状況が続いていましたが、NOCの取得にむけて、必要な追加書類の提出や交渉を進めながら、新しい職員の採用活動やクラムでの事務所物探し、建築業者の選定作業など、できる対応を進めています。



\*追記・2021年11月3日にNOCの取得が完了し活動が再開しています。

新たに職員に加わったチーフ・エンジニアのヨサフ・アリさん